

名古屋身体障害者福祉連合会（名身連）を訪問しました

令和6年10月11日（金）

現在、津島高校は、新しい制服の端切れを制服業者である明石 SUC から譲っていただき、津島毛織工業協同組合の協力の下、名身連第一ワークス・第一デイサービスで作業をしていただくことによって、オリジナルのペンケースを制作しています。

すでに、今年度の三稜会総会にてそのペンケースを披露し、その趣旨を説明してご寄付を賜ることができました（本校ホームページにて紹介済み。「9月8日（日）[25-20240908.pdf \(aichi-c.ed.jp\)](#)」）。

このたび Comodo LABO 代表取締役の加藤美奈様の紹介で、10月11日（金）に本年度の全国高校生フォーラムで発表する予定である生徒4名を含んだ5名の生徒（鵜飼さん、大橋さん、鹿取さん、銭さん、田中さん）と、指導者の柴田先生と金澤教頭先生が、名古屋市熱田区にある名古屋身体障害者福祉連合会を訪問しました。

訪問させていただいた名身連の作業所は JR 熱田駅のすぐ近くに 있습니다。作業所がある名身連第一ワークス・第一デイサービスの隣には本部も隣接しています。

今回は所長の中西 勇雄（なかにし いさお）様に説明をいただくと同時に、実際にその利用者の方達に直接お話を伺うことができました。



利用者の方からは、作業をする上での苦労や、製品を製作するときの工夫を伺いました。そこで、本校のペンケースを作っている方にも会うことができました。その方は左手だけで器用に縫製作業をされました。他にもこの作業所では、女性用の素敵なワンピースや消防服を素材にしたバッグなども制作していました。



作業所を見学した後、別室にて中西所長様達と生徒が対話をしました。「利用者さん達の1ヶ月の賃金はいくらですか？」という生徒からの問いに対して、就労継続支援B型の方は、A型の方が最低賃金（1時間あたり1,077円）が保障されているのに対して、施設で支援を受け



つつ生きがいを与えられている状況なので、かなり低い工賃（賃金）で働いているという説明がありました（全国平均約 17,000 円/月 令和4年度）。

さらに、福祉従事者の処遇に関しては、国の報酬単価に左右される部分が大きく関与し、医療、介護、障害、保育に支払われる報酬単価を決定するのは国の政策となり、その原資を元に職員に配分されるという仕組みを教えてくださいました。今後、より良いサービスを提供する事業所に高配分をする仕組みが進むと、サービスの質が上がり給料にも反映できるので、福祉従事者の希望となるのではないでしょかというお話も伺うことができました。



また、「障害者にどう向き合うか？何が高校生にできるのか？」という問いもいただきました。身近に障害を抱えている方がいない生徒にとって、かなり難しい問いで、各々の生徒が自分なりの答えを伝えました。最後に中西所長様からは「無関心から、関心をたくさんもっていただくことが最初の一歩かなと思います。」というお言葉をいただきました。

生徒達からは、今後も名身連と関係を継続していきたいという希望が伝え

られました。さしあたって来年度の学校祭において、名身連で製作されている小物（チャーム、マグネット、キーホルダーなど）を販売できないか生徒会執行部で検討することになりました。

今回の訪問によって、本校のペンケース制作に携わっていただいている名身連について学ぶことができました。これによって、12月の全国高校生フォーラムの発表が深みを増し、見る人達にとって、説得力のあるものになることを期待しています。



最後に、今後も津島高校は、たくさんの方達のご協力をいただきながら、地域課題の解決の手だてを考えていきます。

教頭 金澤 学